序　　文

阿波学会会長　石　田　啓　祐

鳴門市におかれましては，2015 年 6 月に大鳴門橋開通 30 周年を迎え，近年は「鳴門海峡のうず潮」「ドイツ人俘虜の記録」に関する世界遺産に向けた取り組み等を通じて，近隣自治体との連携・交流を益々推進されておりますことをお慶び申し上げます。

阿波学会は徳島県内の学術調査を中心に「自然環境の把握」「歴史文化の紹介」「みなさまの健康調査」を通じて，地域を支援する活動に取り組んでいる団体です。鳴門市の総合学術調査は，1964（昭和 39）年が初回で，この度は半世紀を経ての調査となり，2015・16 年度の 2 年をかけて，16 調査班，総勢 100 名前後の会員の参加により実施することができました。調査を受け入れてくださいました鳴門市のみなさま，ならびに準備にあたられた教育委員会・県立図書館はじめ，関係各位に厚くお礼申し上げます。

さて，結団式のご挨拶で「鳴門海峡・渦潮成立の熱い夢」をご披露致しました。それは『氷河時代が 2 万年前に終わり，地球温暖化と共に，以前より海水面が 100m 上昇した 1 万年程前のことです。当時，中国山地と阿讃・四国の山地・淡路の山々に囲まれた，北灘の盆地（現在は瀬戸海底）に暮らしていた縄文早期の人々は，仰ぎ見る孫崎－門崎のいずれ「天の橋」と呼ばれる尾根筋の向こうから，ある日を境に潮が滝のようになだれ込んでくる日々が続くようになる様子を…，なだれ込んだ海水は矛で突いたように斜面に谷を刻み，「天の橋」の麓であった北灘の盆地の底を渦巻きながら大地を滝壺か釜底のようにえぐり，海水の湖を成長させて行く様子が 1,000 年間続いたことを…，9,000 年前のある日，播磨の盆地（現在は播磨灘海底）に暮らす早期縄文の人々は，明石の谷間を越えて，東の大阪湾からあふれ込んだ海水が，鳴門方面から広がってきた海水の湖と連結する日を迎えたことを…，その日を境に，人々は沈み行く瀬戸内の盆地の底から北灘や播磨の高見へと生活の場を移し，鳴門の「天の橋」の眼下には海水が渦巻き，潮は満ち引きと共に流れを変え，淡路の山々は，四方を海に囲まれた島の国へと変化する姿を…，その日々は，同時に，四国，本州，九州，佐渡，隠岐，壱岐，対馬，そして瀬戸にそびえる山々がそれぞれ海に囲まれた島の国々へと変化する日々であったことを…，その様子は，子々孫々へと語り継がれ，やがて文字の伝播と共に「イザナギ，イザナミの二神が天の橋に立ち，矛で混沌をかき混ぜ島を創る」という国生み伝承として，また日本列島「大八島（洲）」の形成伝承として，日本最古の文学に記録されるに至ったであろうことを…。』（2015 年 7 月 31 日，ドイツ館にて）

地質班は，科学的な史実としての 2 万年前最終氷河期後の地球温暖化に伴う 130m 海面上昇過程，海域拡大に伴う「陸橋から海峡へ」の地形変化，日本列島「大八洲」の成立と鳴門の渦潮形成メカニズムを本編にまとめております。「暑い夢」は尽きませんが，それは同時に，日本最古の文学に刻まれた「国生み伝承」の歴史を俯瞰的・大局的に捉え，科学的に検証することの大切さと，「地球温暖化」というグローバルな環境変遷の象徴としての「渦潮」の存在意義をお伝えしております。

飛来したコウノトリの生態とコウノトリが好む吉野川平野の生息環境は，鳥類班，水質班，植物相班が報告しています。豊かな植生・水質に育まれた「吉野川平野低湿地帯の生物多様性」を裏付ける発表でもあり，本県鳴門市を中心とした環境・観光資源・文化的資産としての評価をさらに高めることと期待しております。本冊子掲載の全ての報告が，地域資源の保護と活用，みなさまの健康増進のお役に立つことを祈念して，紹介とご挨拶といたします。